

第 1 回宮城 MCLS マネジメントコース及び第 17 回宮城 MCLS 標準コースを開催しました (2019/5/31-6/1)

テーマ：Mass Casualty Life Support、多数傷病者対応コース
 場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2019年5月31日(金)、6月1日(土)に東北大学災害科学国際研究所において、第1回宮城MCLS マネジメントコース、第17回宮城MCLS 標準コースがそれぞれ開催され、佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）がマネジメントコース世話人、標準コース担当責任者として運営に携わりました。

MCLS は日本災害医学会の主催する多数傷病者対応コースで、ファーストリスポンダーとなる消防・警察・医療従事者を対象に、災害現場対応の概念・言語を標準化することで出来るだけ多くの傷病者の救命率及び社会復帰率の向上を目指すトレーニングプログラムです。

マネジメントコースでは各消防本部で指揮の中心となる幹部（「頭」の役割）21人が、また標準コースでは実際に現場で対応する消防、医療関係者（「手足」の役割）35人が、最先着隊の役割や災害現場のマネジメント、現場救護所の運営について机上シミュレーションなどを通して学びました。また国内で一次トリアージとして用いられるSTART 変法について実技指導を受けました。

今回、宮城県内では初めてマネジメントコースが開催されました。現在までに多くの現場対応者がMCLS 標準コースで学んできましたが、「頭」となる幹部の「スイッチの切り替え」を伴って初めて迅速な災害対応につながるからです。参加した消防幹部からは「半日コースだったが中身が濃く、現場での消防と医療の連携について多くを学べた」「災害状況を冷静に判断し災害モードへの『スイッチ』を迅速に入れたい」などの感想が多く聞かれました。

両コースは、今年度から始まった文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」の一環として実施されました。



座学で基本的事項を学ぶ



列車事故現場管理体制を検討



各班の代表者が意見を述べる



人員配置の検討結果を発表



トリアージタグ記載法を学ぶ



START 法トリアージ実技

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）